調査区上空から仙台市街を望む（南西から）

# めずらしい把手の付いたお椀発見！

## ③南小泉遺跡（仙台市若林区）

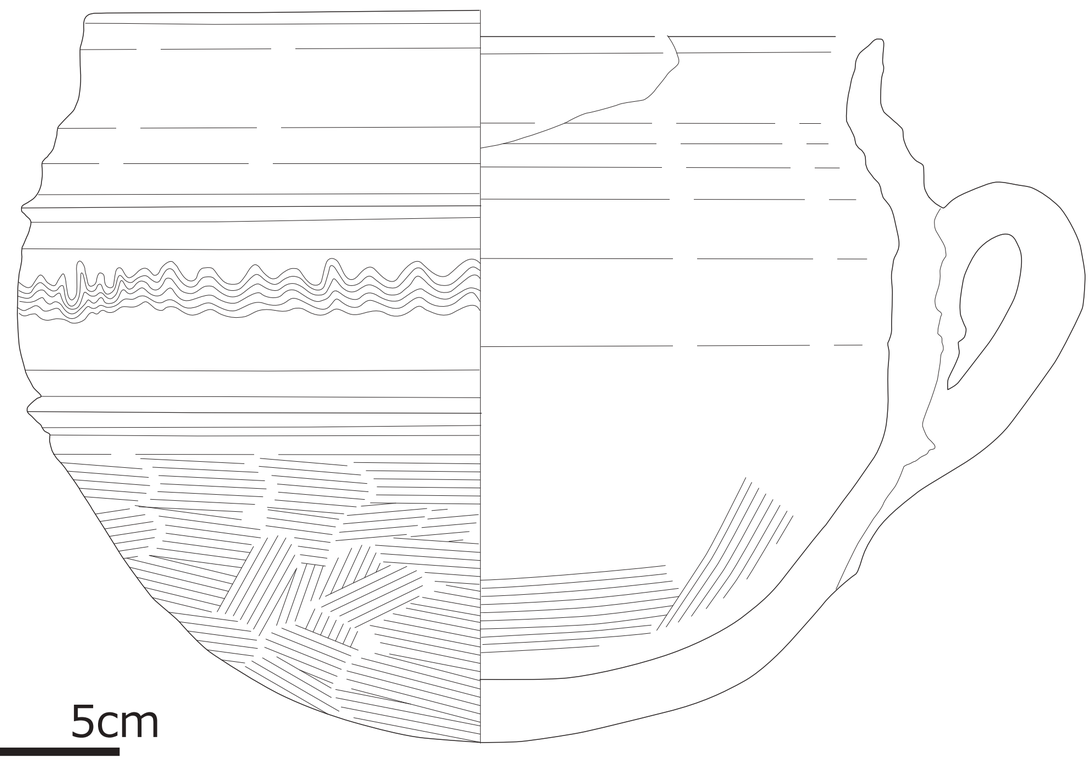
調査地点（上が北）

仙台駅の南東約 3.5km の市街地にある縄文時代から近世にかけての広大な遺跡です。これまで仙台市教育委員会による発掘調査が行われ、弥生・古墳時代には集落であったことが知られています。また、古墳時代中ころ（５世紀ころ）の土師器は、東北地方南部を代表する土師器として、この遺跡の名をとって「南小泉式」と呼ばれています。

今回の調査では、５世紀ころの竪穴建物跡や穴（土坑）が発見されました。穴からは、全国的にもめずらしい形をした須恵器がみつかりました。

| 旧石器 | 縄文 | 弥生 | **古墳** | 飛鳥 | 奈良 | 平安 | 鎌倉 | 室町 | 安土桃山 | 江戸 | 明治 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

穴のなかからは、いくつかの土師器と須恵器が、ほぼ当時の姿を保ったままみつかりました。なかでも、須恵器の把手付埦（飲食物を入れる深さのある器）は、全国的にも出土数が少ない貴重な資料です。




**▲把手付埦**

５世紀代の須恵器も生産していた大蓮寺窯跡（仙台市）で作られた可能性があります。カップのような把手と、波々の模様が特徴です。

**▲ 穴のなかからみつかった土師器**

坏（食べ物を盛る器）が、いくつも重なり合った状態でみつかりました。

協力：仙台市教育委員会